

父が大腸癌がんになった。今年の二月二十四日に新古賀病院で手術をした。手術当日は、付き添いの為一人で久留米まで西鉄甘木線を利用した。普段、あまり電車に乗らない私が、この線を使うのはケアマネジャーの資格試験のため福岡大学まで行くのに乗りかえの宮の陣まで利用する時だけだった。何度も試験を受験しているので、この電車に乗るといつも不安と緊張と「ああ、またか」という憂鬱ゆううつな気持ちで楽しいものではない。

手術の日も父の手術が成功するか言い知れない不安と緊張でいっぱいだった。いてもたってもいられなくなったので、気分を紛らわせようと車内に目を向け乗っている他の乗客に注意をそらした。学生さんや社会人らしい人、これから学校や仕事だろうか。「みんなあたたかい家族があり元気で、家族の誰かが病気という悩みなんてないんだろなあ。」父と二人きりの私としては、他人の人生がうらやましく思えた。

その後、なんとか無事に手術は成功し、術後の経過もよく退院となった。

退院の日も父と二人、久留米から西鉄甘木線を利用した。父と電車に乗るのも久しぶりだし、もしもの時、一人ぼっちになってしまいかもしれないという恐怖から解放され、私ははしゃいでいた。はじめて（この線に）楽しい気分です電車で乗った。久留米から甘木への帰り道、なにげなく父と外の景色を眺めながらとりとめもない会話をした。

「おっ、見てみる。」

父が声をかけた。土手沿いの桜並木が見事だった。満開に咲き誇る桜は、車窓からみると一枚の絵のようだ。通りすぎるのがあつという間で駅名も意識していなかったのでどこの駅の間かわからなかったが…。

「もう、桜の季節なんだね。」

入院生活でお互いバタバタして花見どころではなかった。

「来年はさっきの桜、近くで見に行こう。」

どちらともなく言った。

桜の花が退院のお祝いをしてきているようで、西鉄甘木線での素敵すてきな思い出ができた。

桜が大好きな父。桜の接ぎ木つぎきをして自分で桜を育てている。もう育てた桜は何本も知り合いから、朝倉市の色々なところへお嫁入りしている。

自分の育てた桜で朝倉市を桜でいっぱいにするのが父の夢だ。